



エボラ出血熱 緊急募金

西アフリカ諸国で猛威をふるうエボラ出血熱。ギニア、リベリア、シエラレオネで250万人の子どもたちが危機に晒されています。

エボラ出血熱の状況 ユニセフのエボラ出血熱への取り組み
今回のエボラ出血熱は西アフリカで初めての流行。国際社会から見て史上最も被害が大きい流行です。
エボラ出血熱の感染・流行が報告されている国はリベリア・ギニア・シエラレオネなど。
リベリア、シエラレオネ、ギニアではエボラ出血熱の影響で3,700人以上の子どもたちが孤児となりました。また、250万人以上の子どもたちが感染や流行の危険がある地域での生活を強いられています。
これまでに確認された感染者数は約7,000人。そのうち、約75%は女性です。
適切な処置がなされない場合、致死率は90%にまで及ぶことがあります。
(2014年9月26日時点) (公財)日本ユニセフ協会HPより

エボラ出血熱 緊急募金をお願いしています

郵便局 (ゆうちょ銀行) 募金口座
振替口座 : 00190-5-31000
口座名義 : 公益財団法人 日本ユニセフ協会
* 通信欄に「エボラ」と明記 願います。
* 窓口での振り込みの場合は、送金手数料が免除されます。

ボランティア募集 !!

ユニセフの活動はすべてボランティアの方によって支えられています。一緒にユニセフ活動をしてみませんか。

- 例えば、どんなことをするのか?
◆ユニセフのことを伝えたい
→ 学校などの学習会やパネル展に!
◆人と会うのが好き
→ 募金活動やイベントのお手伝いに!
◆文章を書くのが好き、パソコンが得意
→ 広報誌やホームページ作成に!
◆事務作業が得意
→ 事務局のお手伝いに!
みなさまのお力をおまちしています!!

Hand Hand in Hand Hand
第36回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン
今年も「ハンド・イン・ハンド募金」が始まります!
今年のテーマは「誰もが大切な“いのち”」
11~12月は、ハンド・イン・ハンド募金月間。誰でも参加できるボランティア活動です。各地域のみなさま募金活動へのご参加、ご協力をお願いします!

- [今後の活動予定]
●ユニセフ学習会
11月21日(金) 10:00~12:00 (鳥取市 マザンか会館)
12月9日(金) 10:00~13:00 (鳥取県生協 西部支所)
●「子どもの権利ってなに?」講演会
11月24日(月祝) 13:30~15:30 (米子市文化ホール 展示室)
●第2回役員会&子どもの権利条約講演会
12月5日(金) 14:00-16:30 (鳥取大学 広報センター)
●市民活動フェスタinとっとり
12月6日(土) 12:30-16:00 (鳥取市 マザンか会館)
●ハンド・イン・ハンド募金
11月29日(土) 倉吉未来中心
12月16日(火) AEON日吉津店
12月20日(土) AEON鳥取北店
... その他各地で開催あり。

賛助会員募集!

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によってご支援いただく方法です。現在、鳥取県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。鳥取から世界の子どもたちを支えましょう!!

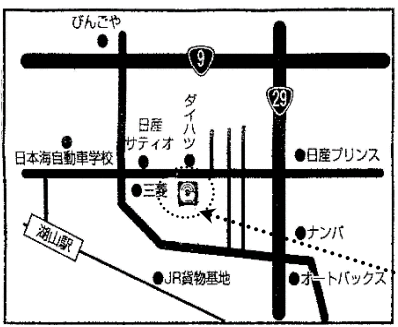
Table with 4 columns: 種類, 対象, 賛助会費, 金額. Rows include 一般賛助会員 (個人, 一口 5,000円), 学生賛助会員 (学生(18歳以上), 一口 2,000円), 団体賛助会員 (団体、法人、企業, 一口 100,000円).

賛助会員期間は、入会月より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

ユニセフライブラリー
ユニセフの活動を紹介するビデオ・DVD・パネル・学習教材等の貸出しを行っています。
ビデオ・DVD
「ユニセフと地球のともだち」「すべての子どもに教育を」「シュマンシュマン-子どもたちからのメッセージ」など
パネル
「ユニセフってなあに」「わたしも学校に行きたい」
学習教材
「地図でユニセフ」「地球のともだちユニセフワークブック」幼児向け絵本「ちきゅうからのしつもん」など
展示ツール
ネパールの水がめ、マラリア対策の蚊帳、経口補水塩など

鳥取県ユニセフ協会

〒680-0931
鳥取市岩吉175-4 鳥取県生協内
TEL : 0857-30-4535
FAX : 0857-31-3330
E-Mail : unicef-tottori@juno.ocn.ne.jp



ボランティア登録、資料貸出、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。
月・火・金 10:00~16:00
水 10:00~12:00
鳥取県生協本部 1階内になります!



とっとりユニセフ通信

unicef Report ▶▶▶ 世界の子どもたちは今...

憎しみと争いの連鎖に巻き込まれる子どもたち~中央アフリカ共和国

1960年の独立以来、相次ぐ動乱や独裁政治が続き、「国家としての体」を成していない状況に、「破たん国家」以上の「幽霊国家」と呼ばれていた中央アフリカ共和国。2012年12月、宗教勢力の対立の形で始まった内戦も泥沼化、指導者のコントロールを失った武装勢力や武装した個人が国内各地を暴力と恐怖で支配する事態に発展し、既に460万の国民(半数は18歳未満の子ども)が巻き込まれています。家を追われ、国内各所で避難生活を強いられている人々は62万5,000人にのぼり、「崩壊の危機」に瀕しています。人道支援関係者からは、「子どもにとって世界最悪の場所の一つ」とも称されています。

●解放された子どもの兵士1,000人以上 ~ しかし依然として10,000人も子ども兵士
ユニセフとパートナー団体は、2014年1月以降、武装勢力に徴用されていた子どもたち1,388名(うち285名は女の子)の解放に至りました。これは、2013年に解放された人数の4倍以上にあたります。しかし、2012年の12月の戦闘激化以降、子どもの兵士は推計で3,500人から1万人に達している可能性があります。ユニセフはパートナー団体とともに、解放された子どもたちに心身のケアや家族を捜して帰れるようにすること、復学の支援など、複数の支援を行っています。年長の子どもたちには、学習の機会に加え職業訓練も受けられるようにしています。

「大切な兄弟は殺され、家は焼き討ちに」~避難しているアデリーヌさん家族
教会の敷地に避難しているアデリーヌさん。1,300人以上の男性、女性、子どもたちが避難しており、拡大する紛争で避難してきた人たちの非公式住居地となっています。夜になって銃撃が始まると、アデリーヌさんは飛び起き、1歳過ぎの息子ディマンシュ・ジーザス君を抱え、急いで茂みの中に隠れます。このような夜を数えきれないほど過ごしています。アデリーヌさんの動きはゆっくりで、疲れた目が極度の疲労を物語っています。
◆紛争に巻き込まれる市民
アデリーヌさんと家族は、2週間前にキャンプに到着しました。「畑で働いているとき突然武装した男たちが現れ、私たちに向かって銃を撃ち始めました。全員命がけで逃げましたが、一人は逃げられませんでした。私の大切な兄弟は殺されたのです。」目に涙を浮かべながら、家は強奪され、燃やされると語ったアデリーヌさん。同じ日に夫と二人の子どもを連れて、10キロの道のりを歩いて教会の敷地にあるこの臨時避難所に来ました。アデリーヌさんの家族は、中央アフリカ共和国で勃発した武力紛争で家を追われた何千もの家庭のひとつです。
◆避難で高まるマラリア感染リスク
診察の順番が回ってくると、看護婦のロジャーさんは、アデリーヌさんの息子の体温を測りました。息子のディマンシュ・ジーザス君の熱は高く、嘔吐もしており、マラリアにも感染しています。子どもが回復するには、子どもにも母親にもたくさんの休息と安らぎが必要です。そして、紛争に終止符が打たれることが欠かせません。



© UNICEF Central African Republic/2014/Timme
診察を受けるアデリーヌさんと息子のディマンシュ・ジーザス君



アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が、2014年4月に訪問した 中央アフリカ共和国の 写真パネル展 を開催!!
日時 : 12月15日(月)~19日(金) 9:00~22:00 (最終日は17:00)
場所 : とりぎん文化会館 フリースペース



© 日本ユニセフ協会 / 2014 / S.Taura
「武装勢力に家族を殺された」と語る男の子 (4月17日 ボサンゴア)。

活動報告



© 日本ユニセフ協会

全国協定地域組織 学習講師研修会

6/5(木) - 6(金) 北海道医療大学 サテライト教室

学習講師研修会は、日本ユニセフ協会が全国の協定地域組織に向け、学習講師養成のため年に1度開催されます。22地域から39名の参加があり、鳥取は初めてのことで事務局長が参加しました。2日間にわたり6地域組織から、学校での出前授業の実践例やボランティア養成講座の紹介などの発表がありました。このような啓発活動については、特に決まった型というのがないので、各地域の方々が内容に合わせて、紙芝居や牛乳パックでグッズを作ったりと、本当に手作りできると工夫をされており、とても勉強になりました。また、夜は各地域の様々な経歴を持つ方たちとの楽しい交流会がありました。ぜひ来年は、ボランティアの方に参加していただき活動の幅を広げていけたらと思います。



© 日本ユニセフ協会



© 日本ユニセフ協会

セタネットワーク (中四国・近畿地方 協定地域組織研修会)

7/5(土) 岡山市立オリент美術館

セタネットワークとは、中四国・近畿地方の協定地域組織が年1回集まり、学習をしたり意見交流をする会です。今年は10地域から52名の参加があり、鳥取からは4名が行きました。美術館で同時開催のシリア写真展と館内見学のと、「卒業証書のない教養—シリア女性のもつ魅力」と題し、考古学者の山崎やよいさんのお話を聞きました。山崎さんは、内戦が続く貧しい生活をする女性の「自活支援」のため、刺繍製品を作ってもらい、日本で販売するシリア紛争被災者支援プロジェクト「イブラ・ワ・ハイト」(アラビア語で針と糸をたちあげた方です。紛争前20年間過ごしたシリアでの生活の様子や深いホスピタリティを持つシリア女性の魅力、崩壊寸前の文化遺産などのお話を聞きました。後半は、今年度で終了する「カード事業」について、グループに分かれ、それぞれの地域の現状や問題点、来年度からの取組みなどを意見交換しました。鳥取県の協会は設立間もないので、各地域のボランティアの活動の様子などをお聞きして、とても有意義な時間となりました。



平和と世界の子どものことを知ろう

7/29(火) 国府東小学校 児童クラブ

平和学習として、絵本「へいわってどんなこと?」「おしっこぼうや」の読み聞かせ、平和クイズをしました。ユニセフ活動の説明後、中尾和則さんに70か国を旅しながら写した世界の子どもの写真、各国の民族衣装、地雷やガスマスク(子どもが売っていたそうです)などを見せていただきながらお話をしてもらいました。子どもたちは、毎日の生活が当たり前と前と違っていましたが、世界にはおやつはもちろん食事でもできず、家族のために仕事をし、学校にも行くことができない子どもがたくさんいることを聞いて、「自分たちにはできない」と言っていました。そして、今でも戦争をしている国があること、戦争が終わっても地雷等に苦しんでいる国があることを知ってびっくりしていました。「世界にはいろいろな人がいて、いろいろな考えがある。どのようにしたら仲良くしていけるのか考えることが大事。戦争は、戦争後も多くの問題が残っていくので絶対にしてはいけない。」と子どもたちにメッセージを送っていただきました。



ユニセフ学習会

9/20(土) 伯耆しあわせの郷

ファシリテーター小松亜希恵さんによる～世界がもし100人の村だったら～のワークショップを体験、参加者25人全員に「役割カード」が配られ、その中の項目ごとにグループを作っていました。実際にグループ分けされた比率から、世界の多様性を学び、読み書きできない人の気持ちを体験したり、世界の所得配分の不均衡をフェアトレードチョコで体感しました。そのあと、ユニセフDVD「すべての子どもに教育を」を視聴、平和グループワンさん手作りのサーターアンダーギーを食べながら、『今、私たちに出来ること』を話し合いました。“時事問題を取り入れながら話していただいたのはわかりやすかった”との感想をもらいました。

役割カード

性別：男
年齢：子ども
日本の場合の年齢：大人
地域：アジア
言語：ロシア語
あいさつの言葉：
ズドゥラ-ストヴィチエ
あなたは文字が読めません

開発教育協会(DEAR) 教材



TAP PROJECT (タップ・プロジェクト)



TAP PROJECTは世界中の子どもたちが「清潔で安全な水」を使えるよう、ユニセフの活動を支援するプロジェクトです。2007年にニューヨークで始まり、世界各地で展開しています。日本では、2012年より日本の水の日(8/1)にあわせてTAP PROJECTを実施、今までに全国の約1500店が参加、約2500万円の募金があり、主にマダガスカルの小中学校などの井戸や男女別トイレの設置を進めています。2014年は8/1(金)～8/31(日)の31日間、このプロジェクトに参加するレストランにおいて提供された水に対して100円もしくはそれ以上の募金をお願いする活動を実施しました。

鳥取では、「大山まきばみるくの里」「鳥取大学医学部付属病院 食堂」で取り組んでいただきました。



「大山まきばまつり」にてカード・ギフト頒布

9/28(日) 秋晴れの中、大山まきばみるくの里で行われた「大山まきばまつり」にてカード・ギフト頒布を行いました。ユニセフボランティアや鳥取県生協からも応援にかけつけ、10人のスタッフで交代しながら来場者に協力を呼びかけました。ユニセフ製品の定価の約50%が世界の子どものために使われると聞いて、たくさんの方がブースを訪れて下さいました。中には「お金はこういう時に使わないとね」と購入して下さる方やカード・ギフト頒布が今年でなくなってしまうことを聞いて残念がる方も。募金額と合わせて27,886円のご協力を頂きました。ありがとうございました。



ユニセフカード事業についての大切なお知らせ

ユニセフによるカード&グッズの製作・頒布の終了

ユニセフ本部自身が行ってきたユニセフカードやグッズの製作・頒布は、本年末をもって終了することになりました。これに伴い、日本ユニセフ協会を通じたユニセフカードとグッズの頒布、お申込み受付も、本年12月25日をもって終了いたします。

2015年からは・・・

これまで、ユニセフは募金事業の一環としてカードやグッズを直接扱って参りましたが、さらなる効率化を図るため、2015年からは、ユニセフが承認した企業が、ユニセフ・ロゴマークの付いたカードやグッズの製造・販売を行い、その売上の一部を子どもたちのための活動資金としてユニセフに送金する方式に移行します。

日本においては、(株)日本ホールマークが来年秋からユニセフカードの製造・販売を行います。ユニセフカードやグッズのお求め方法については、来年お知らせいたします。「手から手へ、子どもの幸せを願う思いを乗せて支援の輪を広げる」というユニセフカードやグッズの使命は変わりません。この機会にたくさんのお申込みをいただけることを願っております。そして来年から新たな方式で始まるユニセフカードやグッズについても、引き続きご愛顧、ご協力をお願い申し上げます。

ユニセフカードとギフト 秋冬号2014



12月25日 受付終了

ユニセフ支援ギフト カタログ



12月25日 以降も受付

ユニセフが承認した企業が制作したユニセフカードの例



カード絵柄面



カード裏面

※今後もユニセフのロゴや書式の大幅な変更はありません。